

第16回政策推進会議報告

日時 11月20日(水)9時30分～10時35分

場所 4-1会議室

出席者 20人

1 次期尼崎市議会定例会市長提出予定案件について

企画財政局長から資料に基づき報告。

2 平成26年度主要取組項目(素案)等について

企画財政局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 今回の主要取組項目(素案)は、平成26年度の主要取組項目を全て掲載しているのではなく、現在調整中の事業も多くある。また、予算編成過程の公開に取り組んでおり、尼崎市公開事業たな卸しにおける点検結果を踏まえた今後の取り組み以外にも、現時点で各局が平成26年度に新規または拡充事業として予算等の要求をしている事業、及び調整状況についても併せて公開していくことにしている。現時点で、職員定数やハード事業の一部、単年度予算の事業についてもある程度要求が出てきており、こういった状況を市民に示すとともに、職員も情報を共有し、自分の局と関連するような他局の事業について確認しておいてほしい。

・構造改善効果額が2億円を切っているような状況のなか、新規・拡充事業がなかなか採択されず、規模がかなり圧縮されているような印象を受けるが、これはやはり構造改善効果額との兼ね合いか。

今回の主要取組項目(素案)は平成26年11月末時点での調整の姿をお示ししているものであり、保留となっているものが24事業、政策として扱わず財政査定のみを行っているものが9事業あり、これらについては計上できていない。ただ、構造改善効果額が1億7,900万円と非常に厳しい状況であるので、この範囲内で新規・拡充事業を調整したいと考えている。

・構造改善効果額に枠配分予算の効果額は算入されていないということで良いか。

枠配分予算は、消費税増税分の3%を既存事業から捻出するかたちで編成しているので、実質的な効果額はほぼ出ていないと言える。

・では、今後の収支見通しにおける差引収支の赤字部分はほぼ埋まっていないということか。参考に掲載している収支見通しは、平成25年度当初予算時の収支の状況であり、平成25年度だけを見ると、地方交付税の増や市税収入の若干の増があるので、単年度では良くなっている。ただし、消費税増税に関して、今後の地方財政に影響する項目については、まだ詳細が示されていないので、現時点で収支見通しを修正するには不確定要素が大きく、平成25年度当初予算時の収支見通しのままにしている。12月に地方財政対策が出るので、それを見て、年明けにもう少し精査した数値を出す予定だ。

(市長) 昨年度、向こう3年間のハード整備について、ある程度の枠を取って計画を立てるよう議論し、また、4年目以降についても、一定の投資枠を計上して収支見通しを作ってもら

っているが、その一方で、ファシリティマネジメントや、橋梁や道路の長寿命化、市営住宅の建替保全など、中長期的な視野で取り組むべきハード事業の要求が各局からあがってきている。また、教育環境の改善や中学校給食の実施など、議会や市民から強いニーズがあがっている事業もある。歳入面、歳出面ともに不確定要素があり、それらの点について精査しながら、その都度情報を共有していきたい。現在見込んでいない歳出予定が多く出てくると、単年度の収支が少し良くなったからといって、新規・拡充事業には充てることができないという思いを持っている。

- ・ 100周年に向けての市としての方向性を教えていただきたい。

市制 100 周年記念プロジェクト検討事業を素案の 34 ページに掲載している。企画財政局としては、平成 28 年度の 100 周年に向け、平成 26 年度、平成 27 年度は大事な年だという認識のもと、平成 26 年度には、市民・各種団体等を構成員とする会議体を立ち上げ、記念事業及び協賛事業の検討、また各種団体等との調整を行いたい。庁内的にも同様に、今後 100 周年に向けての庁内検討会議を立ち上げ、議論を進めていきたい。また、市民も気軽に参加できるようなプラットフォームをたちあげたらどうか、といったことを考えているが、まだはっきりとした姿が描けていない。各局の協力ももちろん必要なので、姿が描けた際には、別途、場を設けて説明していきたい。

- ・ 現場ではすでに 100 周年に向けて動いている部分もあり、市としての大枠の方向性だけ示されれば、それを見据えて議論を進めることができるので、できるだけ早く示していただきたい。

(市長) 各局でも 100 周年に向けたアイデアが出ていたり、市民や事業者から声がかかっていたりという状況があるかもしれない。そういった情報を共有する場を設けたり、企画財政局が作成したたたき台を、各局で共有し議論する場を作ったりするほうが良い。

(顧問) 周年事業は、周年を祝うことよりも、それをきっかけに組織や市域が変わるといふことに重みがあるのではないだろうか。会議体をまわすことよりも、それぞれに思いを持った人たちと一緒にどう準備をしていくのか、市が枠組みを作って進めていく時代ではもうないのではないかと、という話を担当課とさせていただいた。

- ・ 市制 100 周年記念プロジェクト検討事業とは別に、「市制 100 周年を記念して」という表現を使っている事業がいくつか見受けられる。市としての方向性がまだ決まっていなくても、これではすでに 100 周年事業が計画立てて進んでいるかのように受け止められるので、議会への説明の際には表現を工夫する必要があるだろう。

(副市長) 平成 25 年度は内部検討の年と位置づけており、内部検討の結果、今どのような形になっているかを問われるだろう。平成 26 年度予算を公表する際には、今年度の検討を踏まえ、市としての考え方を示さなければならない。それまで今しばらく時間をいただきたい。

(市長) 昨年度も予算の編成過程を公表したが、議会にあまり認知されていなかったように思う。平成 26 年度予算については、議会にも熟度の低い段階から情報共有をしてご意見をいただきながら、よりよい予算編成をしていきたいので、各局もその点を念頭においてほしい。

3 その他

- ・ こども青少年局長から、子ども・子育て支援制度シンポジウムについて説明。
- ・ 都市整備局長から、気仙沼市における「花のまちあまがさきチューリップ運動」について報告。
- ・ 市民協働局長から、尼崎市における自治のルールづくりに関する庁内検討会議の設置及び同ワーキングチームへの参加者の募集について説明。

以 上